

平成 19 年 4 月 19 日

研究目的・ テーマの概要	経済数学用 e ラーニングシステムの研究 及び デジタルミュージアムにおけるデータベースの構築と利用方法の研究				
日程	平成 18 年 4 月 1 日 から 平成 19 年 3 月 31 日 までの 365 日間				
主たる研修場所	国内 海外	国内の場合 海外の場合	学習院大 イギリス	オックスフォード	(主要都市 1 ヶ所)

### <研修の概要>

2006 年 8 月から翌年 3 月までオックスフォード大学において上記 2 つの研究を行なった。マートンカレッジ学長 Prof. Dame Jessica Rawson に、マートンカレッジ academic visitor としてオックスフォード大学ユニバーシティ・カード登録をして頂いたおかげにより、オックスフォード大学での計算機ユーザ名及びメールアドレス、ボードリアン図書館の入館許可が得られ、上記研究をスムーズに進めることができた。以下、デジタルミュージアムにおけるデータベースの構築と利用方法の研究に関する、研究内容を記す。研究成果の詳細な内容については添付の論文を参照して頂きたい。

#### <デジタルミュージアムにおけるデータベースの構築と利用方法の研究>

本研究は、コンピュータについては Dr Matthew Dovey, JISC (UK Joint Information Systems Committee) Programme Director for e-Research にご指導頂き、楽器博物館については、Dr H el ene La Rue, University Lecturer and Curator of the Bate Collection and of the Musical Collections at the Pitt Rivers Museum and Fellow of St Cross College にご指導頂いた。研究のため、ベート・コレクションによく通ったが、場所はクライストチャーチ・カレッジの隣にあり、オックスフォード大学の音楽学部の附属施設となっている。学生が古楽器に接することが可能なように、演奏可能な状態に保守をするという役割も果たしている。Dr La Rue はベート・コレクションのためのオリジナルな Web 構築を計画しているので、私はマルチメディアデータベース構築というテクニカル面から手伝ってきた。実際に私がビデオカメラをもって撮影にいき、Dr La Rue およびベート・コレクションのスタッフと協力して撮影、その後、Web 上で表示可能とするためにデジタル処理する。この Web ページ構築については、すべき作業が多く残っており帰国後も続行して手伝っている。

さらに Dr La Rue のご指導のもと、7 歳から 11 歳の子供を対象として、楽器博物館およびそのバーチャル博物館をどのように教育に活用するか、というテーマで研究を行った。Dr La Rue から「日本の郡司すみ先生のところにまず行くように」と勧められて、日本にいる間は元 国立音大教授（既にご退官）でいらっしゃる郡司すみ先生の東京のオフィスを訪問し、楽器学について教えて頂いた。日本では楽器を見学するために博物館に行く、という習慣はあまりないが、ヨーロッパでは日常のこととなっている。まず楽器博物館ごとに独自の展示ポリシー、コレクション、ポリシーがあり、それは個々に違っていることを理解するために、以下の楽器博物館を見学した。ストックホルム音楽博物館、ブリュッセル楽器博物館、パリ音楽博物館、浜松楽器博物館、ロンドンではホルニマン博物館、大英博物館、

ローヤル・カレッジ・オブ・ミュージックの楽器博物館，ビクトリア&アルバート博物館．オックスフォードでは，ピット・リバーズ・ミュージアム，アシュモリアン博物館，ベート・コレクションに場所が近いので頻繁に通った．この見学の結果を踏まえて，子供のためにどのように楽器博物館を見学させればよいか，どのようなツールを用意するとよいか，などの提言を行った．詳細は添付の論文を参照して頂きたい．

Dr Dovey と私の間のディスカッションでは，西洋とアジアの子供の音楽フレーズにおける好き嫌い，嗜好の違いがいつどのように形成されていくかを調べたいという遠大な研究課題も出た．そのためには，自国の音楽について少し学ぶ必要があると思い，長期研修前にお能の金春流第 80 代ご宗家 金春安明先生に仕舞と謡のお稽古をつけて頂き，また，英語でお能を説明できるように資料などを選択して頂いた．これは私が女子部の仕舞部に所属しており，その当時，金春先生にもお稽古をつけて頂いたことがあるためである．お能について Dr La Rue などの研究者とディスカッションするため，金春牧子さんにもオックスフォードに来て頂き，2 人で Dr La Rue の研究室，及びドラゴンスクールを訪問した．西洋とアジアの子供の音楽の嗜好の違いについては，これは簡単に研究成果がでる種類の研究ではないと考える．データベース研究者として，博物館をどう子供の教育に活用するか，という研究を続けながら，そのテーマの一環として長期的に取り組んでいければと，考えている．

以上